

A decorative graphic on the left side of the page, featuring a grid of squares in various shades of blue and purple, some overlapping and some solid, creating a stepped effect.

2010年3月期 第1四半期 決算概要

2009年8月

稲畑産業株式会社

2010年3月期 第1四半期 決算総括

<ポイント>

- ❑ 昨年秋の世界経済の深刻な減速から一部回復の兆しがみられたものの、依然として厳しい状況が続き、全セグメントで減収
- ❑ 売上高は、主力の情報電子事業や合成樹脂事業の低調に加え、為替(円高)の影響もあり、対前年同期比26.0%減の913億円
⇒円高による影響額25億円
- ❑ 営業利益は、売上総利益の減少に伴い、対前年同期比89.4%減の1億円
- ❑ 経常利益は、持分法による投資損失等の増加により、対前年同期比90.2%減の2億円
- ❑ 純利益は、事業整理損失引当金戻入額等の特別利益の計上があったこと等により、対前年同期比79.3%減の2億円

連結	2008年度 第1四半期	2009年度 第1四半期	前年同期比
売上高	1,234億円	913億円	△26.0%
営業利益	17億円	1億円	△89.4%
経常利益	24億円	2億円	△90.2%
四半期純利益	11億円	2億円	△79.3%
1株当り 四半期純利益	18円19銭	3円78銭	

2010年3月期 第1四半期 B/S

①減収に伴う売上債権及び仕入債務等の減少

②保有する投資有価証券の時価下落

単位:百万円

(資産の部)	08/06	09/06	増減	(負債／純資産の部)	08/06	09/06	増減
現金及び預金	5,300	12,681	7,381	支払手形及び買掛金	98,354	68,565	△29,788
受取手形及び売掛金	147,066	102,326	△44,740	短期借入金	63,803	42,634	△21,168
棚卸資産	30,477	24,341	△6,136	その他流動負債	8,739	7,233	△1,506
その他流動資産	11,187	6,905	△4,281	長期借入金	9,598	15,086	5,488
有形固定資産	12,516	12,220	△296	その他固定負債	16,278	11,927	△4,351
無形固定資産	3,358	5,267	1,909	株主資本	55,219	55,650	430
投資有価証券	55,783	40,767	△15,015	評価・換算差額等	19,499	9,515	△9,984
その他固定資産	6,787	6,643	△143	その他純資産	984	540	△443
資産合計	272,477	211,153	△61,324	負債純資産合計	272,477	211,153	△61,324

2010年3月期 第1四半期 事業セグメント別売上高

情報電子 ⇒ 対前年同期比 △16.5% 78億円減

- ✓ 中国の景気刺激策の効果や昨年末の急激な生産調整に対する反動などから液晶テレビ関連を中心とした商材に回復の兆し
- ✓ プリンター・複写機分野は回復基調となるものの、カラートナー分野は厳しい状況となるなど力強さに欠ける

化学 品 ⇒ 対前年同期比 △29.9% 58億円減

- ✓ 機能化学品では景気後退の影響により、樹脂原料、自動車関連材料などが大幅に減少
- ✓ ライフサイエンス関連では、医薬中間体、原薬の国内向けが順調である一方、欧州を中心とした海外向けは減少

合成樹脂 ⇒ 対前年同期比 △34.8% 154億円減

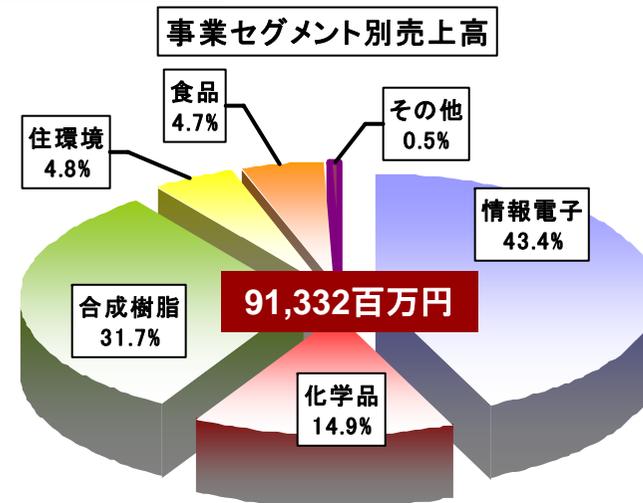
- ✓ 海外(1-3月は底)では、東南アジア、北東アジアで大幅に減少
- ✓ 国内では一部回復の兆しがあるものの、需要低迷により高機能樹脂及び汎用樹脂ともに減少
- ✓ 一方、シート製品及びスポーツ資材は堅調に推移

住 環 境 ⇒ 対前年同期比 △15.7% 8億円減

- ✓ 建築・不動産不況の長期化に加え、建築着工戸数の減少や竣工物件の値下げなどが重なり依然厳しい状況
- ✓ 産業資材の住宅水廻り関連は新規開拓もあり微増

食 品 ⇒ 対前年同期比 △29.7% 17億円減

- ✓ 水産物は、回転ずし向けは比較的好調である一方、サーモン事業の縮小・見直しにより減少
- ✓ 農産物は主力であるブルーベリーの価格下落により減少
- ✓ 畜産物は米国産牛肉の輸入ビジネス撤退により大幅に減少



2010年3月期 第1四半期		
	売上高(百万円)	前年同期比(%)
情 報 電 子	39,632	△16.5
化 学 品	13,646	△29.9
合 成 樹 脂	28,956	△34.8
住 環 境	4,353	△15.7
食 品	4,264	△29.7
そ の 他	478	△46.1
合 計	91,332	△26.0

2010年3月期 第1四半期 事業セグメント別営業利益

情報電子 ⇒ 対前年同期比 $\Delta 56.7\%$ 4億円減

- ✓ 液晶テレビ関連を中心とする商材に回復の兆しがみられ、また、装置関連で大型真空装置の検収が上がったものの、全般には景気低迷の影響により減少

化学 品 ⇒ 対前年同期比 3億円減

- ✓ 景気悪化により機能化学品関連が大幅に落ち込んだこと等により減少

合成樹脂 ⇒ 対前年同期比 8億円減

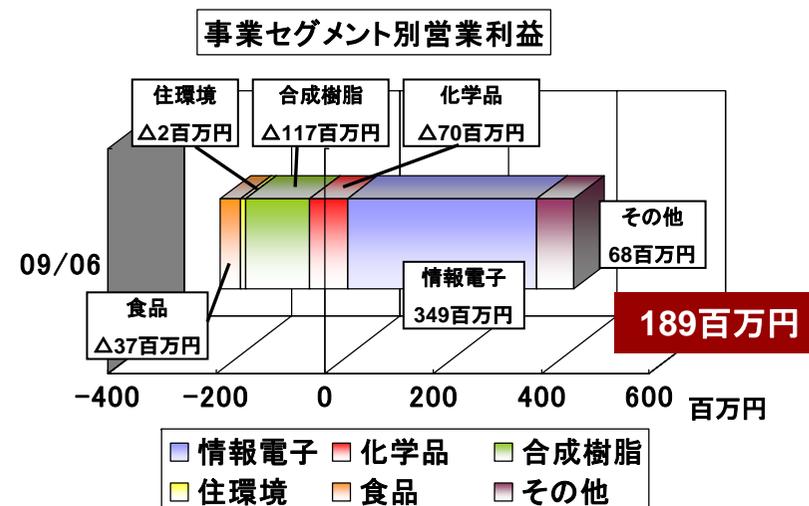
- ✓ 東南アジア、北東アジア(1-3月は底)において大幅に減少
- ✓ 国内でも、シート製品、スポーツ資材を除いて、需要低迷により厳しい展開となり減少

住 環 境 ⇒ 対前年同期比 4百万円増

- ✓ 建築・不動産不況の影響により、全般に低調

食 品 ⇒ 対前年同期比 12百万円減

- ✓ 売上の減少に加え、ブルーベリーの価格下落等により減少
- ✓ 在庫処理の目途がついたことにより粗利率は改善



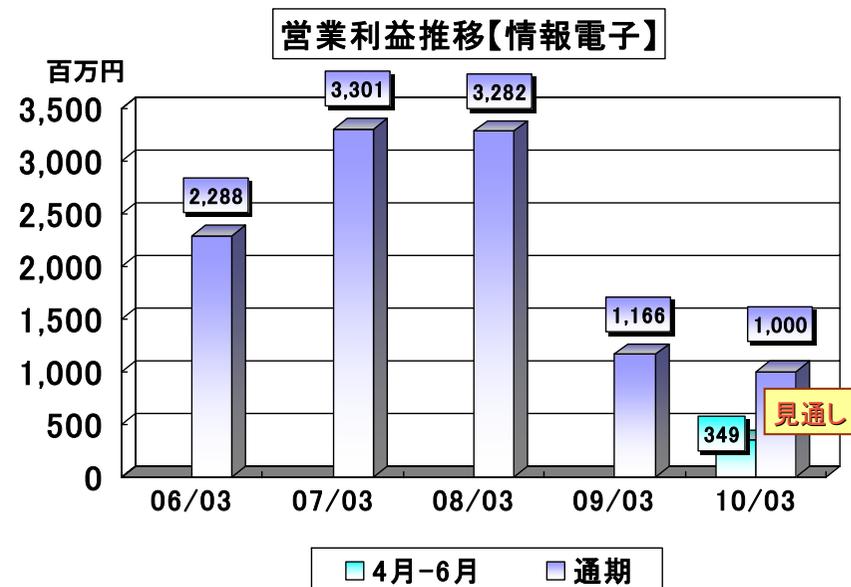
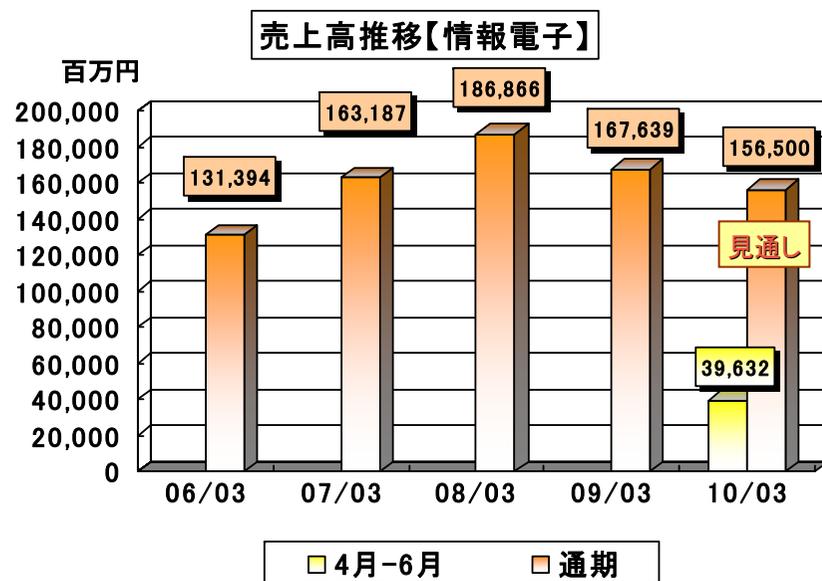
2010年3月期 第1四半期		
	営業利益(百万円)	前年同期比(%)
情報電子	349	△56.7
化学 品	△70	—
合 成 樹 脂	△117	—
住 環 境	△2	—
食 品	△37	—
そ の 他	68	34.2
合 計	189	△89.4

※前年同期 化学品 253 合成樹脂 718 住環境 △7 食品 △25

2010年3月期 第1四半期 主要事業の個別概況(情報電子)

売上高 対前年同期比 $\Delta 16.5\%$ 78億円減少

- 昨年末の急激な生産調整に対する反動により液晶テレビ関連を中心とした商材に回復の兆し
- 中国国内需要の増加により北東アジアにおいて液晶関連商品が回復基調
- プリンター・複写機関連は回復基調となる中、インクジェット関連は在庫調整の影響から大幅に減少
- 装置関連は大型真空装置の検収が上がったことから大幅に増加
- 太陽電池関連は重点分野の一つと位置づけ積極的に新規開拓



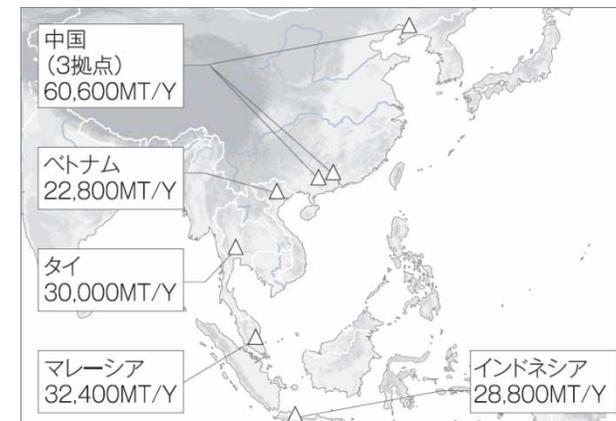
'10年3月期の数字はあくまで予想であり将来にわたり環境などの変化により数字は変動致します

2010年3月期 第1四半期 主要事業の個別概況(合成樹脂)

売上高 対前年同期比 $\Delta 34.8\%$ 154億円減少

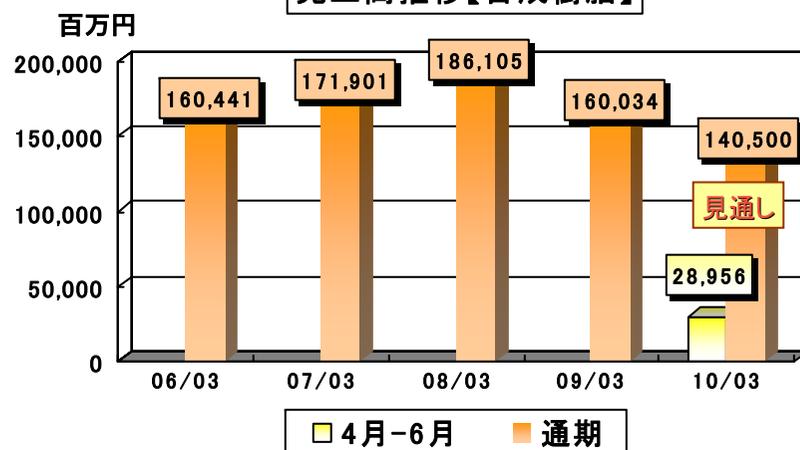
- 海外(1-3月は底)では東南アジア、北東アジアで大幅に減少
- 国内高機能樹脂は一部に回復の兆しがみえたものの自動車や電子関連を中心に大幅に減少
- 国内汎用樹脂については高機能樹脂と比して需要の落ち込みは緩やかであったものの減少
- シート製品はグループ会社の乳製品関連容器が順調
- スポーツ資材はグリップテープを中心に堅調

樹脂コンパウンドの年間生産能力

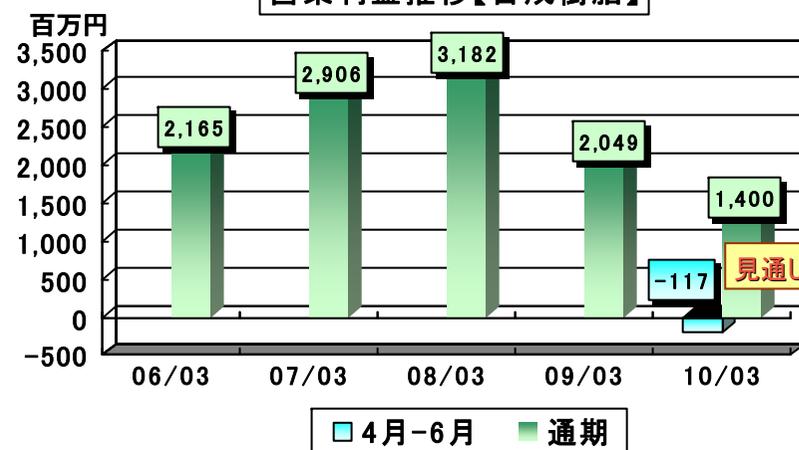


174,600MT/Y 5カ国7ヶ所 (2009年4月1日現在)

売上高推移【合成樹脂】



営業利益推移【合成樹脂】



'10年3月期の数字はあくまで予想であり将来にわたり環境などの変化により数字は変動致します

2010年3月期 第1四半期 地域別概況

東南アジア ⇒ 対前年同期比 $\Delta 49.2\%$ 85億円減

- ✓ 販売先に欧米向け輸出企業が多く、世界同時不況の影響が深刻であり特に加工部門の稼働が大幅に低下
- ✓ シンガポールでは、輸出を中心とする企業向けの販売が落ち込み、合成樹脂、情報電子関連ともに減少
- ✓ タイでも商社・加工部門ともに大幅減少

北東アジア ⇒ 対前年同期比 $\Delta 35.3\%$ 67億円減

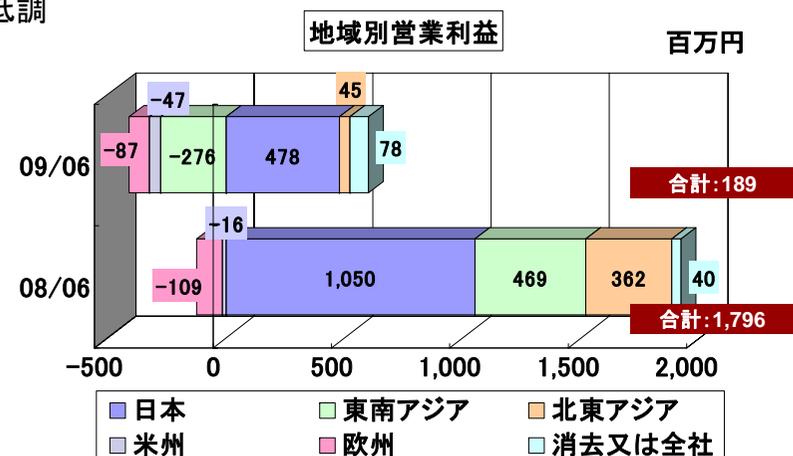
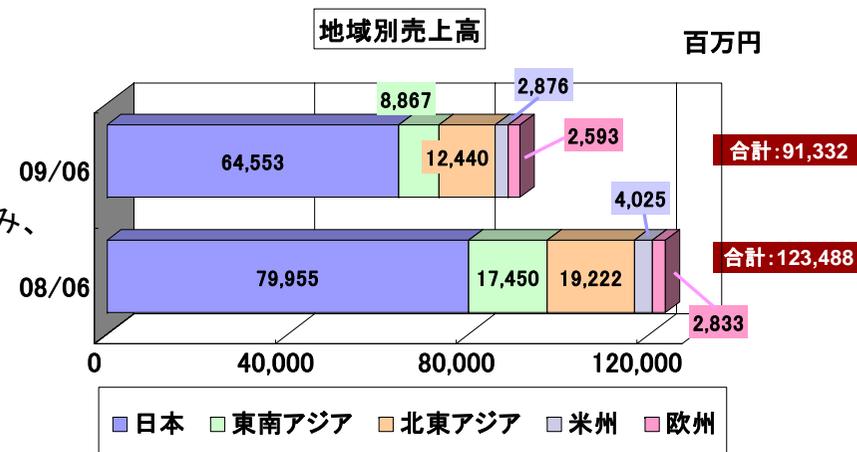
- ✓ 香港、華南では、中国国内需要の増加により液晶関連商品が回復傾向となる一方、樹脂コンパウンド事業が大幅生産減
- ✓ 華東では合成樹脂関連、電子材料や液晶関連商品、化学品とも低調
- ✓ 台湾、韓国では液晶関連ビジネスが回復基調

米州 ⇒ 対前年同期比 $\Delta 28.5\%$ 11億円減

- ✓ 経済危機の影響により大幅に減少
- ✓ 情報電子関連では液晶、半導体向けが大幅減
- ✓ 食品関連では、すし用食材を取り扱う関係会社が引き続き好調

欧州 ⇒ 対前年同期比 $\Delta 8.5\%$ 2億円減

- ✓ フランスでは製造子会社の医薬向け販売が若干伸びたものの、電子材料関連が減少し、高級化粧品原料も減少
- ✓ ポーランドでは在庫調整の影響により液晶ディスプレイ用材料が減少



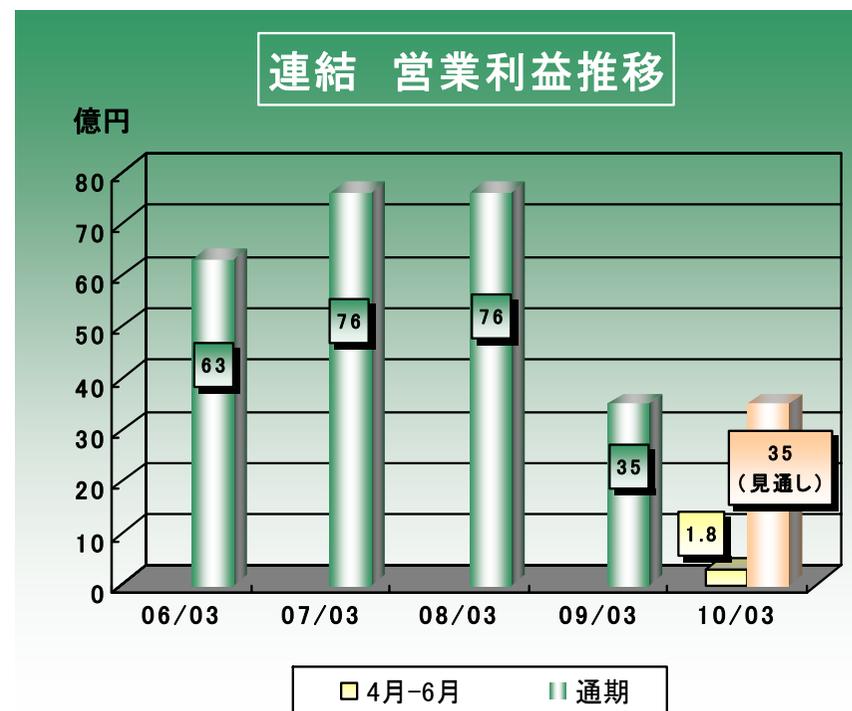
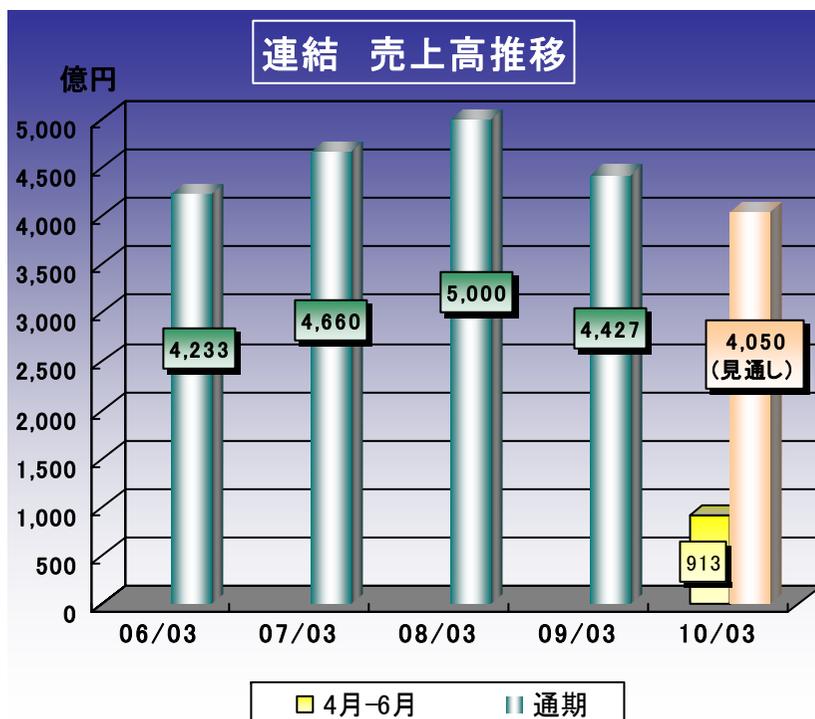
2010年3月期 第1四半期 連結子会社概況

- 稲畑工貿(大連保税區)有限公司が重要性の増加により連結子会社化
- SIKグループを100%子会社化 ⇒ 海外合成樹脂ビジネスの更なる発展を目指す

	連結子会社状況(内訳)		
	国内	海外	合計
連結子会社	13	45	58
持分法適用関連会社	5	5	10
合計	18	50	68

■ 売上高と営業利益の推移と見通し(06年3月期～10年3月期)

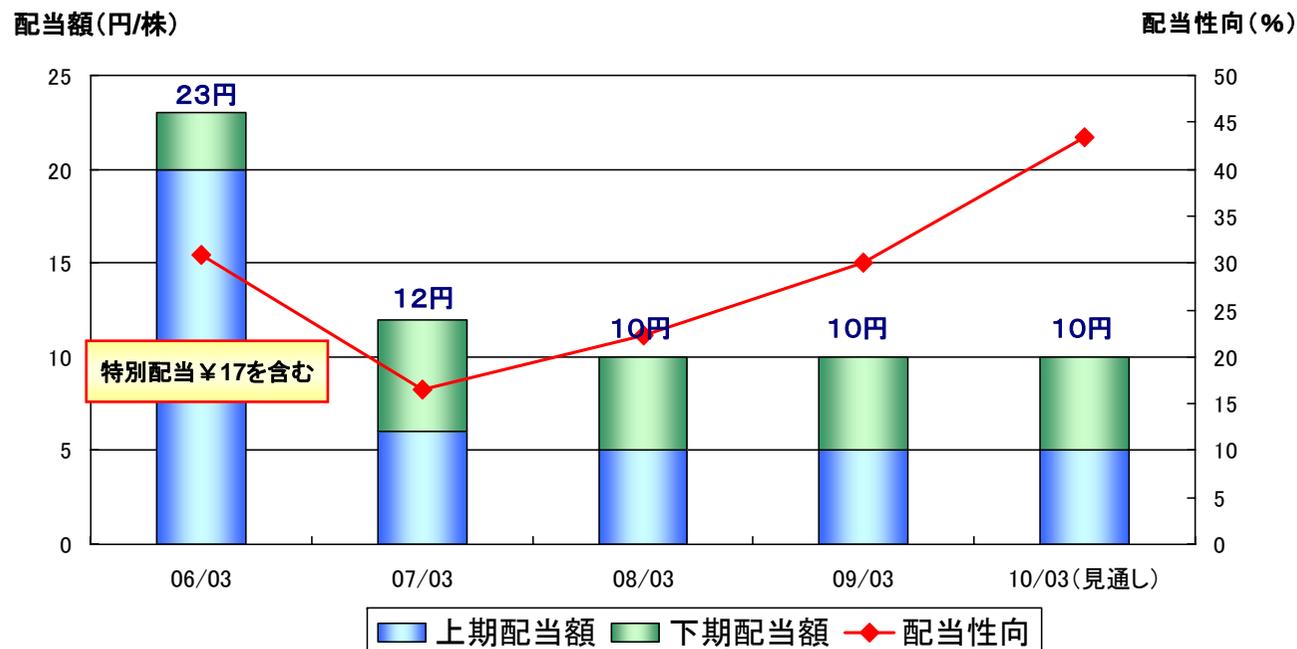
- 引き続き主力の情報電子、合成樹脂を中心に積極的かつグローバルな事業展開を推進



'10年3月期の数字はあくまで予想であり将来にわたり環境などの変化により数字は変動致します

株主への還元

- 事業収益やキャッシュ・フローの状況などを勘案し、連結純利益の20%~30%程度を目安とし、今後の企業価値向上に向けての中長期的な投資などを考慮しつつ総合的な判断で決定。
- 利益水準に関わらず、原則として1株あたり最低限年間10円の配当金の維持に努める。



今後の方針

- ▶ シナジー効果の実現を重点に置いた事業の再構築を推進
- ▶ 有望なアライアンスの締結の促進と自社企画プロジェクトの拡充
- ▶ グループ会社を含む全社員で内部統制の推進に取り組むとともに内部統制システムの充実を図る
- ▶ 引き続き国内外の連結経営を強化、収益力の向上、人材の育成に一層注力する
- ▶ 資金の効率化の更なる向上と財務体質の強化